

- 49 . どうか、あなたのしもべへのみことばを思い出してください。
 あなたは私がそれを待ち望むようになさいました。
- 50 . これこそ悩みの中の私の慰め。
 まことに、みことばは私を生かします。
- 51 . 高ぶる者どもは、ひどく私をあざけりました。
 しかし私は、あなたのみおしえからそれませんでした。
- 52 . 主よ。私は、あなたのとこしえからの定めを思い出し、慰めを得ました。
- 53 . あなたのみおしえを捨てる悪者どものために、激しい怒りが私を捕えます。
- 54 . あなたのおきては、私の旅の家では、私の歌となりました。
- 55 . 主よ。私は、夜には、あなたの御名を思い出し、また、あなたのみおしえを守っています。
- 56 . これこそ、私のものです。
 私があなたの戒めを守っているからです。

TANAKH による英訳

49. Remember Your word to Your servant through which You have given me hope.
 50. This is my comfort in my affliction, that Your promise has preserved me.
 51. Though the arrogant have cruelly mocked me, I have not swerved from Your teaching.
 52. I remember Your rules of old, O LORD, and find comfort in them.
 53. I am seized with rage because of the wicked who forsake Your teaching.
 54. Your laws are a source of strength to me wherever I may dwell.
 55. I remember Your name at night, O LORD, and obey Your teaching.
 56. This has been my lot, for I have observed Your precepts.

- 49 . どうか、あなたのしもべへのみことばを思い出してください。
 あなたは私がそれを待ち望むようになさいました。

、 $\text{yml}^{\prime} \text{xy}^{\prime} \text{rva} \text{ l} \text{ l} [; \text{ } ^{\wedge} \text{Db}^{\prime} [:\text{]. rbD^{\prime}-rk\text{ } \triangleright$

l xy^{\prime} : Pi.Pf.

wait, await, wait, tarry,

wait for = hope for, make to, hope

rkz^{\prime} Qal Impv.

remember, recall

(過去の経験を、罪を、良い点、悪い点を、契約を、偶像崇拜を、憐れんでしもべを、自分の土地を、人類を、しもべの苦悩を、彼らの献身を、とりなしを)

rbD^{\prime} 確定的な definit 定められた神の意志表現 人に対する神の御旨(十戒)

Remember Your word to Your servant through which You have given me hope.

50 . これこそ悩みのときの私の慰め。まことに、みことばは私を生かします。

˘ yltYxi ^tr'mai yKi yltb. ytinkh-taz0

Pi.Pf. rma

hmχh

comfort. ヨブ6:10 「私はなおもそれに慰めを得、容赦ない苦痛の中でも、こおどりして喜ぼう。」

= 不確定的な

ynl'

私は聖なる方のことばを拒んだことがないからだ。」

indefinit

poor, afflicted, humble (affliction 32, trouble 3, afflicted + 01121 1, variant 1; 37)

神の意志の自由性 1. poor, needy; 2. poor and weak, oppressed by rich and powerful. affliction 苦悩、惨めさ

3. poor, weak, afflicted Israel, 4. humble, lowly (victorious king) 卑しい、見窄らしい

This is my comfort in my affliction, that Your promise has preserved me.

51 . 高ぶる者どもは、ひどく私をあざけりました。しかし私は、あなたのみおしえからそれませんでした。

˘ ytiy i' al { ^tr'Almi dam-d[; yntyl h/ ~ydZE

hj i'

#yl

dze proud, arrogant.

Qal. Pf.

Pf. Hi. 叱責する、バカにする

stretch out, spread out, extend, incline, bend

Though the arrogant have cruelly mocked me, I have not swerved from Your teaching.

52 . 主よ。私は、あなたのとこしえからの定めを思い出し、慰めを得ました。

˘ ~xikaw hwhy ~l'A[me ^yj P'vmi yTrkz"

~XII

Qal. Pf.

Impf. Hith. 108 ; comfort 57, repent 41, comforter 9, ease 1

1. (しもべなどへの) 憐れみ、同情、2. 後悔、悔い改め(poem)

3. 自分を慰める、解放される 4. 楽にする、そっと~する? j P'vmi: 「さばき」法律用語(裁判、判決、判決文、法廷、手づき、定め、決定、公正、正しさ、慣例、裁きの執行)

I remember Your rules of old, O LORD, and find comfort in them.

Gen5:29 彼はその子をノアと名づけて言った。「主がこの地をのろわれたゆえに、私たちは働き、この手で苦労しているが、この私たちにこの子は慰めを与えてくれるであろう。」

Gen 24:67 イサクは、その母サラの天幕にリベカを連れて行き、リベカをめとり、彼女は彼の妻となった。彼は彼女を愛した。イサクは、母のなきあと、慰めを得た。

Gen 6:6 それで主は、地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた。

Gen 27:42 兄さんのエサウはあなたを殺してうつぶんを晴らそうとしています。みずから慰めています。恨みを晴らそうとしています。

Exo13:17 「民が戦いを見て、心が変わり(後悔して)、エジプトに引き返すといけな。」 Exo32:14 すると、主はその民に下すと仰せられたわざわいを思い直された。

Jdg2:18 主が彼らをあわれまれたからである。 Rut2:13 「あなたは私を慰め、このはしのためにねんごろに話しかけてくださったからです。」

53 . あなたのみおしえを捨てる悪者どものために、激しい怒りが私を捕えます。

˘ ^tr'Al ybz{o~y[iv'rme yltz'a] hp'[l'z

[vr,

zxa' hp'[l'z

猛烈な、荒れ狂う、飢え渴きの心、吹き荒れる風、妬み、熱情、熱心

wickedness

Qal.Pf.

(法を無視する暴虐な)無法者 grasp, take hold, take possession 握る、捉える、支配する、所有する
(エジプトのような)敵の邪悪さ、倫理的な悪さ

I am seized with rage because of the wicked who forsake Your teaching.

54 . あなたのおきては、私の旅の家では、私の歌となりました。

yrWm tybB. ^yQxu yliWh' tArmi>
rAgm' hyh' rymE"song
sojourning-place Qal.Pf.

sojourning = life-time. 「QX0 おきて」刻み付けられたもの、刻印されたもの。定め、制定、命令
Your laws are a source of strength to me wherever I may dwell.

55 . 主よ。私は、夜には、あなたの御名を思い出し、また、あなたのみおしえを守っています。

^tr'AT hrnvaw hwhy> ^mvi hl'yEb; yTrkz"
Qal.Impf. Qal.Pf.

I remember Your name at night, O LORD, and obey Your teaching.

56 . これこそ、私のものです。私があなたの戒めを守っているからです。

yTrēn' ^ydQpi yKi yLihtya' taz0
Qal.Pf. Qal.Pf.

Watch, guard, keep,

~ydWp. musterings, i.e expenses.

「戒め dWp.」: 主から委託された事柄か。

This has been my lot, for I have observed Your precepts.

説教

49 - 56 節は「ザイン Z 詩篇」と言い、各節の冒頭の言葉は Z(アルファベットの Z)で始まる言葉がズラッと並びます。

この詩篇全体を見渡すと、

「ザイン Z」で始まる言葉「rkz'(思い出す、覚える)」という言葉が
49, 52, 55 節と、それぞれ節目に登場しながら詩人の祈りが展開していきます。

まず、詩人は、

神さまが詩人に語ってくださったみことばを神さまご自身が忘れないよう、思い出してくださるようにと、神さまに願い求めます。

49 . どうか、あなたのしもべへのみことばを思い出してください。

あなたは私がそれを待ち望むようになさいました。

「どうかあなたのしもべへのみことばを思い出してください。

それによってあなたは私に希望を与えてくださいました。」(49 節直訳)

この詩人にとって、みことばは「希望」でした。

詳しい事情はわかりませんが、詩人は神のことばによって生きる「望み」を与えられた、と言うのでした。

のみならず、「これこそ悩みの時の私の慰め」であり「いのち」であると告白します。

50 . これこそ悩みのときの私の慰め。

まことに、みことばは私を生かします。

「これこそ悩みのときの私の慰め。

なぜなら、あなたのみことばが私を生かすからです。」(50 節直訳)

「悩み」とは、「苦難、苦悩、惨めさ、貧しさ、乏しさ、弱さ、卑しさ、みすぼらしさ」という意味です。

それが具体的にはどのような状況を指しているのかははっきりとわかりませんが、

今日的に言うと、

会社をリストラされたのか、受験に失敗したのか、

あるいは失恋したのか、愛する家族を失ったのか、

はたまた人に裏切られたのか、病気になったのか、具体的な詳しい状況は全然わかりませんが、

しかし、詩人は、

自分が悩み、苦しみ、乏しく、見窄らしく、惨めな状況の中で、永遠に変わる事のない神のことばに慰めを見出しておりました。

そして、その理由を、

すなわち詩人が神のことばに「慰め」を見出していた理由を、

神のことばが詩人に「生きる力」を与えてくれたからだと説明するのです。

その時その時神さまが詩人に語ってくださる神のことばが、詩人に生きる力を与えてくれた、と告白するのです。

「神のことばは生きていて、力がある」と後に使徒パウロは言いました。

「神のことばは生きていて、力がある」のです。

そして、私たちを生かし、「悩みの時」に「慰め」てくれるのです。

私たちが「苦難、苦悩、惨めさ、貧しさ、乏しさ、弱さ、卑しさ、みすぼらしさ」の中にあって、

もうダメだ、これ以上進めない、という時にも、

生ける神のことばは私たちに「慰め」を与え、「希望」を与え、「生きる力を満たして」、私たちをなおも「生かしてくれる」のです。

神のことばによって生きる望みと慰め、力をもった詩人は、

今度は、自分の行く手を阻む妨害に遭っても、それにめげることなく、主の教えからそれなかった、と告白します。

51 . 高ぶる者どもは、ひどく私をあざけりました。

しかし私は、あなたのみおしえからそれませんでした。

詩篇には、特にこの 119 篇には、詩人に敵対して詩人を迫害する「迫害者」「敵」の存在がしばしば登場します。

これまでも、

「あなたの仰せから迷い出る高ぶる者、呪わるべき者」(21)、

「そしりとさげすみ」(22)を投げかける者、

「私が恐れているそしり」(39)を投げかける者、

「私をそしる者」(42)といった「迫害者」が登場し、詩人をあからさまに攻撃して、詩人を悩ませてきました。

このような迫害の渦中であって、

しかし、詩人は自分が

「とこしえからの定め

(『さばき：裁判、手続き、判決、判決文、執行など一連の行程を意味する法律用語』)」を「思い出し」て、「慰め」を得たと告白します。

つまり、昔から神さまは、ご自分を信じる者をどのように助けてこられたのか、

あのエジプトからイスラエルを救い出してくださった救いのみわざ、

そして、今も生きて働いて、詩人を迫害者の手から救い出してくださっている救いのみわざ、

その救いの約束とみわざを、「思い出し」ては、「慰め」を得た、と言うのでした。

52 . 主よ。私は、あなたのとこしえからの定めを思い出し、慰めを得ました。

そして、再び神に逆らう「悪者」のことを引き合いに出しながら、

今度は、そのような「あなたのみ教えを捨てる悪党ども」に対して「激しい怒り」を燃やしている、と告白します。

53 . あなたのみおしえを捨てる悪者どものために、激しい怒りが私を捕えます。

詩人は、

自分が主に従い行くのを妨害する「高ぶる者ども」(51)、

「あなたのみおしえを捨てる悪者ども」(53)の

(神に逆らわせようとする)誘惑に打ち勝つのみならず、

悪魔の側に立って自分を妨害する彼らの仕業に激しい義憤を燃やしていると告白するのでした。

こうして詩人は告白します。

54 . あなたのおきては、私の旅の家では、私の歌となりました。

「旅」とは文字通り「旅行」とも「寄留」とも「一時滞在」とも訳せる言葉です。

いずれにせよ、その土地に定住しない、その土地の人間ではない、

一時滞在の外国人であり、旅行者であり、出稼ぎ労働者であり、仮に一時的にそこに滞在する寄留者のことです。

ですから、「旅の家」とは、一時的に僅かの間だけ住んでいる「仮の宿」「寮」「寄宿舍」「旅館」「ホテル」「飯場」のことです。

旅の生活の特徴は、目の前の現実が常に変化し続けるということでしょう。

実際に旅の生活というものは、毎日がめまぐるしく移り変わるものです。

格好良く言えば、毎日が激動の日々と言えるし、

悪く言えば、毎日が落ち着かない不安定な日々を生活しなければならない、ということにもなるでしょう。

(例えば青森のように古い田舎にむか～しから住んでいるような)人は、

他の土地に移り住んだことがない、本当にその土地に先祖代々何百年もの間生きてきているという場合もあるでしょう。

そうなれば、その人の毎日は、四季の移り変わり以外ほとんど変わることなく生活する、ということになるでしょう。でも、一年、二年、三年で次々と引越ししながら、別の土地に移り住み続けるとなれば、目の前の現実が次々に変わっていった激動の日々を体験することでしょう。

私個人のことを言うと、私は北海道の留萌という町で生まれました。

そこで15年過ごした後に、函館で3年、新潟で4年、東京国立で3年、青森で7年生活し、その後は韓国釜山に高飛びしまして、そこで3年生活し、それから今東京赤羽に来て、ここで8年過ごしました。ですから、これを総括しますと、この43年間で、実に7つの土地で生活したことになります。

43年間で単純に7で割ると平均およそ6年間で、6年間ごとに別の土地にピョンコピョンコ移り住んだことになりますが、実際には、最長15年、次に8年、7年、4年、3年、3年、3年で、合計して43年になります。

住んだ場所も、北海道のド田舎から大都会の東京まで、日本海の新潟や因習の強い青森、さらには言葉も習慣も異なる韓国にまで行って、そこで生活しました。

留萌、函館、新潟、国立、青森、釜山、赤羽と、

しかも既にこの赤羽では人生で二番目に長い8年生活したとなると、それじゃあ次は一体どこへ行くのだろうかと思わず考えてしまうほどであります。こう考えてきますと、私の人生というものは、まさに「旅」の生活ではないだろうかと個人的には実感しています。今住んでいる家も、あれも自分のものではありません。

仮の宿です。

どんなに家賃を払っても自分のものにはならない、しかも教会の名義で教会が借りてくれている借家です。それはまさにここで詩人の言う「旅の家」なのです。

しかし、詩人がここで言っている「旅の宿」とは、文字通り「外国に寄留している状態」であったり、

「旅の途中」であったりしたのかも知れませんが、でも、実は、もっと一般的な、広い意味で言っているのだと思います。すなわち、束の間の、はかない自分の人生のことを思い、それを「旅の家」と呼んでいるのだと思います。

54. あなたのおきては、私の旅の家では、私の歌となりました。

毎日が目まぐるしく変わる、激動の、あるいは不安定な、まるで「旅」のようなこの束の間のはかない自分の人生に於いて、詩人は、永遠に変わることのない神さまの「おきて」が、「私の歌となりました」と告白します。

「歌」とは、

曲付きの「歌」であったり曲のない「詩、短歌、俳句」であったり、あるいは世俗の「歌」であったり「讚美」であったりします。いずれにせよ、「歌」とは、私たちの人生を何某か総括するものと言えます。

例えば、演歌というものがあります。

男女の惚れたはれたを歌にしたものですが、それは、好きになった、ふられた、別れたという経験がまず先にあって、それからそれを何らかの形で総括して、それを美しく、時には泥臭く、ドロドロと、あるいは暗く鬱々と歌にするのです。ですから、「歌」というのは、言わば人生の総括です。

私たちの人生は「歌」によって総括されるのです。

聖書でも、例えば創世記を見ると、やはり物語の節目節目が「歌」で締め括られています。

天地創造の物語の最後、ノアの洪水の物語の最後、ヤコブ物語の最後、ヨセフ物語（創世記全体）の最後は「歌」で総括されています。

詩人は「**あなたのおきては、私の旅の家では、私の歌となりました。**」と告白しました。

神の「おきて」は、詩人にとって「歌」となったと言うのです。

自分の人生を総括する「歌」となったと言います。

これまでいろいろあったけれど、

泣いたり笑ったり、悩んだり怒ったりしたけれど、

途中、目の前が真っ暗になったり、つまづいたりしたけれども、

結局、最後は、聖書にある通り、みことばの約束通り、神さまの「おきて」の通りになったと総括するに至ったと告白するのです。

それで、神のことばは、そのまま「歌」となるのです。

自分の人生を総括する「歌」となるのです。

私のこれまでの半生は何だったか、いろいろあったけれども、

結局はすべてみことばの通りだったと、みことばが自分の人生をそのまま映し出す「鏡」となる、「歌」となる、というのです。

それで、詩人は、

「旅」の最中の「暗い『夜』」にも、「あなたの御名を思い出し」、そうしながら「あなたのみおしえを守っている」と告白します。

55 . 主よ。私は、夜には、あなたの御名を思い出し、また、あなたのみおしえを守っています。

「悩み」、「旅」、そしてここではさらに強い表現で「夜」です。

先の見えない、真っ暗な「夜」です。

「夜」だって今のように電灯があればよく見える、と考えてはなりません。

この時代は古代の時代です。

「夜」と言えば、言うまでもなく真っ暗なのです。

見えません。

五里霧中で、すべてが手探りです。

そういう暗黒の中であって、詩人は懸命に「あなたの御名を思い出し」ていると告白します。

「あなたの御名を思い出す」とは、神さまのことを思い出しているという意味です。

つまり、目の前の見た目の現実に振り回されないよう、詩人は神さまに思いを向けているのです。

思えば、「悩み」というものは、

その原因が失業にせよ、失恋にせよ、病気にせよ、裏切りにせよ、

目まぐるしく移り変わる目の前の現実に振り回されて起こるものではないでしょうか。

私たちが悩んでいる時、天におられる神さまは、果たして同じように悩んでおられるでしょうか？

そんなことはありません。

何で悩んでいるか、そんな問題で、と私たちを見ておられるのではないのでしょうか？

聖書のどこに「東大に入れ」と書いてあるのでしょうか？

聖書のどこに「あの人と結婚しろ」と書いてあるのでしょうか？

聖書のどこに「今つとめている会社で出世しなさい」「金持ちになりなさい」と書いてあるのでしょうか？

そんなことはどこにも書いていません。

聖書が言っているのは、十戒です。

神と人を愛せよ、それだけです。

私たちの思いは、一言で言えばこの世での成功を夢見ます。

でも、神さまのみこころはそれとは全く別次元のものです。

そして、私たちの思いがなるのではなくて、神さまのみことばが成就します。
神さまが言われるとおり、その通りになるのです。

だから、詩人は「悩み」の時に、「旅」に於いて、「夜」「暗黒」の中で、
「**あなたの御名を思い出し、あなたのみおしえを守**」りました。

56 . これこそ、私のものです。

私があなたの戒めを守っているからです。

「**これこそ、私のものです。**」

この直訳は、これこそ「私への」です。

ユダヤ人訳聖書では「私の土地、相続地」と訳され、

「私に神さまが与えてくださった土地、財産、相続地」というような意味になるでしょう。

何が「神さまが詩人に与えてくださった相続財産」だと言うのでしょうか。

原文ではその直前にある「あなたの戒め（トラー：律法）」のことです。

つまり、詩人は、「神さまの律法（トラー）」こそが「神さまが私に与えてくださった相続財産」だということです。

私たちは、この地上の人世に於いて、いろいろと得ようと努力します。

地位や名誉や財産、健康、人の好意など、数え上げればきりがありません。

しかし、

私たちがどんなにいろいろと得ようと努力し、焦っても、

神さまがこの私に与えてくださる「相続財産」は、「みことば」「戒め」「トラー」「律法」なのです。

これこそ「慰め」であり、「希望」であり、「いのち」、「相続財産」だと詩人は告白するのです。

私たちも、この告白を私たち自身の告白として、生きていきたいと心から願います。